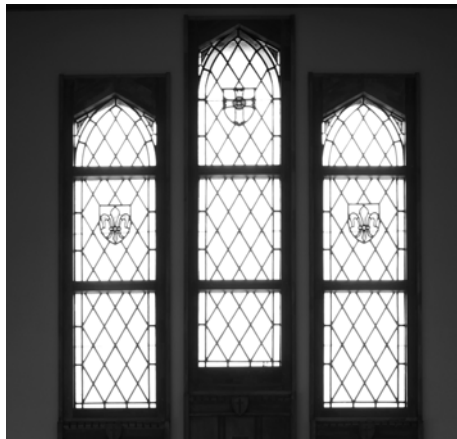


東日本大震災 8周年記念の祈り

午後2時46分の黙想

ー同じ時 想いを一つに 皆で祈りをー



ーすべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えてー

2019年3月11日（月）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

[ユニゾン]

1 おそれ にとらわれ さまよ うや みじ にて
2 たえざ るは めぐみ には げま うけ てく
3 こころ は ひらか れ みこ と ば か が や

ひるま ぬ こころ を おあ た えく ださ い
せつな る ここの り は り みち き り ひら く
くろく も すぎ さ は り 日 だ ま り に む か う

いかな る ときにも あな たは と も に
このみ を ゆだね る あな たを し ん じ
たびじ を ふみだ す あな たを み つ め

かみよ ちか らを い き る ちか らを
かみよ みわ ざを い き る ゆか らを
かみよ ひか りを い き る き ぼ うを

Osoreni toraware
Paul Hikari Miyazaki (1965-)

8888 8777
KANAME
Nitei Torii

ひがし に ほんだいしんさい しゅうねん き ねん いの
東日本大震災 8 周年記念の祈り

この祈りは午後 2 時 15 分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

と も に 集 う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに

く あらた いの
悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。
この神の愛に應えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければな
らないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対
して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦してください。
新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、
救い主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

聖歌 第 4 7 7 番

とく とう
特 禱

司式者 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

天地の造り主である主よ、あなたは苦しみ悩みのうちにある人びとをささえてくださいます。どうか、東日本大震災のために、今なお苦難のうちにある人びとを顧み、ふたたび立ち上がる力をさずけてください。また、わたしたちもこの人びとの悩み苦しみを祈りのうちに覚え、その痛みを少しでも共に担うことができますように。苦しむ人と共に歩んでくださる、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

第1朗読

朗読者 第1の朗読は、ヘブライ人への手紙 第12章1節から

1 こういうわけで、私たちもまた、このように多くの証人に雲のように囲まれているのですから、すべての重荷や絡みつく罪を捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。2 信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら、走りましょう。この方は、ご自分の前にある喜びのゆえに、恥をもいとわないで、十字架を忍び、神の王座の右にお座りになったのです。3 あなたがたは、氣力を失い、弱り果ててしまわないように、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを、よく考えなさい。

(ヘブライ 12:1-3)

朗読者 第1の朗読を終わります

詩編 第16編 (8-11節)

8 私は絶えず目の前に主を置く || 主が右におられ、私は揺らぐことがない
9 それゆえ、私の心は喜び || 心の底から喜び踊り、この身もまた安ら

かに^す住まう

10 あなたは^{わたし たましい よ み す お}私の魂を陰府に捨て置かず || あなたに^{ちゅうじつ もの ほろ あな}忠実な者に滅びの穴を
^み見せず

11 命^{いのち みち}の道を^{わたし しめ}私に示されます || 御前^{みまえ}には満ち溢れる^{み あふ}喜びが、右の手には麗^{よろこ みぎ て うるわ}
しさが^{えいえん}永遠にありますように

福音書

朗読者が執事または司祭の場合には、以下の福音書朗読前後の唱和（祈祷書 166 ページ）
を用いることができる。

朗読者 聖マルコによる福音書 第10章46節から

46 一行^{いっこう}はエリコに^き来た。イエスが弟子たちや大勢^{たいせい}の群衆^{ぐんしゅう}と一緒に^{いっしょ}に、エリ
コを出^でられると、ティマイの子^こで、バルティマイという盲^{もうじん}人が道端^{みちばた}に座^{すわ}って物
乞^こいをしていた。47 ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子^こイエスよ、私^{わたし}
を憐れ^{あわ}んでください」と叫^{さけ}び始^{はじ}めた。48 多く^{おほ}の人々^{ひとびと}が叱^{しか}りつけて黙^{だま}らせよう
としたが、彼^{かれ}はますます、「ダビデの子^こよ、私^{わたし}を憐れ^{あわ}んでください」と叫^{さけ}び続^{つづ}
けた。49 イエスは立^たち止^どまって、「あの人^{ひと}を呼^よんで来^きなさい」と言^いわれた。人
々^{ひと}は盲^{もうじん}人を呼^よんで言^いった。「安心^{あんしん}しなさい。立^だちなさい。お呼^よびだ。」
50 盲^{もうじん}人は上着^{うわぎ}を脱^ぬぎ捨^すて、躍^{おど}り上^あがってイエスのところ^きに来^きた。51 イエスは、
「何^{なに}をしてほしいのか」と言^いわれた。盲^{もうじん}人は、「先生^{せんせい}、また見^みえるようになる
こと^いです」と言^いった。52 イエスは言^いわれた。「行^いきなさい。あなたの信^{しんこう}仰^うが
あなた^{すく}を救^{すく}った。」盲^{もうじん}人はすぐ見^みえるようになり、なお道^{みち}を進^{すす}まれるイエスに
従^{したが}った。

（マルコ 10:46-52）

朗読者 聖マルコによる福音書を終わります

*勧話または説教

勧話または説教をする。

＊沈 黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

＊打 鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙祷の時を持つ。

黙祷後、次の唱和を用いる。

司式者 ^{ひがしにほんだいしんきい}東日本大震災によるすべての^{ぎせいしゃ}犠牲者を^{おぼ}覚えます

^{しゅ}主よ ^{えいえん}永遠の^{へいあん}平安をこの人々に^{ひとびと}与え^{あた}

会衆 ^た絶えざる^{ひかり}み光をもつて^て照らしてください

^{し と しんきょう}使徒信 終

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、^{てん ち}天地の造り主、^{つく}全能の父である^{ぬし}神を信じます。

また、その^{ひと}独り子、わたしたちの主^ごイエス・キリストを信じます。^{しゅ}主は^{せいれい}聖霊によ
って^{やど}宿り、おとめマリヤから^う生まれ、^うポンテオ・ピラトのもとで^{くる}苦しみを^う受け、
^{じゅうじか}十字架につけられ、^し死んで^{ほうむ}葬られ、^{くだ}よみに降り、^{みつかめ}三日目に^{しにん}死人のうちからよみ
がえり、^{てん}天に^{のぼ}昇られました。そして^{ぜんのう}全能の父である^{ちち}神の^{かみ}右に^{みぎ}座して^ざおられます。

そこから^{しゅ}主は^い生きている人と^{ひと}死んだ人とを^し審くために^{ひと}来られます。

また、^{せいれい}聖霊を信じます。^{しん}聖なる^{せい}公会、^{こうかい}聖徒の^{せい}交わり、^{まじ}罪の^{つみ}赦し、^{ゆる}体の^{からだ}よみがえり、
^{えいえん}永遠の^{いのち}命を信じます ^{しん}アーメン

^{へい わ}平和の^{あいさつ}挨拶

司式者 ^{へい わ}キリストはわたしたちの平和です

会衆 ^{しゅ}わたしたちは^な主のみ名によって^で出会い、^{しゅ}主の^{へい わ}平和を^わ分かち^あ合います

司式者 ^{へいわ} 平和の^{あいさつ}挨拶を^か交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ささ 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 ^{しゅ} 主の^{すく}救いの^{わざ}み業に^{かんしゃ}感謝し、ともに^{さんび}賛美を^{ささ}献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 ^{しゅ} すべてのものは主の^{たまもの}賜物

一同 ^{しゅ} わたしたちは主から^う受けて主^{しゅ}に^{ささ}献げたのです **アーメン**

いの ともに 祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 ^{すく} 救い主イエス・キリストのみ^{ことば}言葉とみ^{わざ}業に^{たよ}頼り、^{ぜんこうかい}全公会のため、また^せ世
^{かい}界のために、^{ひがし}ことに^{ほんだいしんさい}東日本大震災を^{おぼ}覚えて^{いの}祈りましょう

司式者 ^{いつく} 慈しみ^{ふか}深い^{かみ}神、^{なぐさ}慰めの^{しゅ}主よ、^{いま}今、わたしたちは^{ねん}8年を^へ経た^{おぼ}東日本大震
^{さい}災を^{おぼ}覚えて^{いの}祈ります。どうか、^ひ被災地にある^{ひと}人、^ひ避難生活^{ひなんせい}を^{かつ}強い^しられて
^{ひと}いる人、^{とく}特に^に日本社会^{ほんしゃかい}の中で^{なか}生きる^いことの^{こんなん}困難に^{くる}苦しむ^{ひと}人、^{しょうらい}将来の^{きぼう}希望
を^み見^だい出^{ひと}せない人（^{こと}に――）を^{ささ}支えてください

会衆 ^{しゅ} 主よ、^きお聞きください

司式者 ^{げん} 原子力^{しりょく}発電所^{はつでんじょ}事故^{じこ}により、^{うしな}失^しわれた^し自然と^{ひとびと}人々の^{せい}生活を^{おぼ}覚えます。^{ふる}故
^{さと}郷を^{はな}離れて^{せい}生活^{せいかつ}する^{ひと}人、^き危険な^{さぎょう}作業に^{じゅうじ}従事^{ひと}する^{ひと}人とその^{かぞく}家族^{まも}をお守り
ください。そして^{せい}政治と^{しゃかい}社会に^{せきにん}責任^もを持つ^{ひとびと}人々に^{ただ}正しい^{みち}道を^{あゆ}歩ませてください

会衆 ^{しゅ}主よ、お聞きください

司式者 わたしたちもまた、これらの^{くなん}苦難をつねに^{おぼ}覚えることができますように。
^{にっぽんせいこうかい}日本聖公会の^ひ被災者^し支援の^{はたら}働きを^{つよ}強めてください。そしてわたしたち
も^{おも}思いと^{ちから}力を合わせて、共に^あ歩み^{とも}続けることができるように^{みちび}導いてく
ださい

会衆 ^{しゅ}主よ、お聞きください

司式者 いのちの^{みなもと}源である^{しゅ}主よ、^{ひがし}東^に日本^{ほんだいしんさい}大震災のすべての^ぎ犠牲者^{せいしゃ}、そして^せ世界^{かい}
^{かくち}各地の^{さいがい}災害と^{あらそ}争いの^{なか}中で^{いのち}生命を^{うしな}失った人々を、^{ひとびと}あなたの^{うで}み腕の中に^{なか}抱
き、^{えいえん}永遠の^{やす}安らぎを^{あた}与えてくださいますように

会衆 ^{しゅ}主よ、これらの^{いの}祈りを^{しゅ}主イエス・キリストの^なみ名によって^{ねが}お願いいたし
ます。アーメン

^{しゅ}主の^{いの}祈り

一同ひざまずく。

司式者 ^{しゅ}主よ、^{あわ}憐れみをお^{あた}与えください

会衆 ^{あわ}キリストよ、^{あた}憐れみをお与えください

司式者 ^{しゅ}主よ、^{あわ}憐れみをお^{あた}与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

^{てん}天におられるわたしたちの^{ちち}父よ、

^なみ名が^{せい}聖とされますように。

^{くに}み国が^き来ますように。

^{てん}みこころが^{おこな}天に^ち行われると^{おこな}おり地にも行われますように。

わたしたちの^ひ日ごとの^{かて}糧を^{きょう}今日も^{あた}お与えください。

わたしたちの^{つみ}罪をおゆるしください。わたしたちも^{ひと}人をゆるします。

わたしたちを^{ゆうわく}誘惑におちいらせず、

^{あく}悪から^{すく}お救いください。

くに ちから えいこう えいえん
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ
感謝

司式者 とともにいの祈りましょう

すべてのもののみなもとである神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたしたちがすべての人びとと分ち合うことができますように。そして聖霊の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

しゅ い
主とともに行く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 かぎ ひと あい めぐ かみ よ ひと よ き ひと ぜんこうかい こ
限りない愛と恵みの神が、世にある人と世を去った人との全公会を、み子
イエス・キリストによる復活とみ国の喜びに導いてくださいますように
会衆 アーメン

は けん しやう わ
派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 かみ ひと つか い
神と人ともに仕えるために行きましょう
会衆 しゅ な
主のみ名によって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌 第505番



この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、
『日本聖公会聖歌集』（2006 年）、『聖書 日本聖書協会共
同訳』（2018 年）から抜粋したもので、日本聖公会東北
教区主教 主教 ヨハネ 吉田雅人が、救主降生 2019 年 3
月 11 日の東日本大震災 8 周年記念の祈りでの使用を許
可したものである。